

輸送動向について(平成21年12月)

平成22年1月

1. 輸送概況

今月は、中旬から下旬にかけて、日本海縦貫線及び上越線での大雪による輸送障害が発生し、高速貨70本、専貨2本が運休した。

荷動きについては、製造業の生産活動は輸出を中心に一部改善が見られたものの、国内では景気低迷に伴う個人消費の冷え込みが続いたほか、輸送障害の影響を受け、全体では低調に推移した。

コンテナ貨物は、自動車部品、化学薬品、化学工業品、紙・パルプが前年を上回ったものの、農産品・青果物、食料工業品などが前年を下回り、全体では前年比96.6%となった。自動車部品、化学薬品、化学工業品、紙・パルプは、一昨年の世界同時不況以降の急激な減産の反動により増送となった。一方、農産品・青果物は政府米及び民間流通米が大きく減送となった。また、食料工業品は、砂糖の販売が不振となり減送となった。

車扱貨物は、石油が前年を上回ったものの、セメント・石灰石が前年を下回り、全体では96.3%となった。石油は揮発油、軽油が増送となった。一方、セメント・石灰石及びその他品目となる化学薬品は、一部顧客の輸送中止及びコンテナ化により減送となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別 扱別	月計		前年比	年度累計		前年比
	本年実績	前年実績		本年実績	前年実績	
コンテナ	1,799	1,863	96.6%	15,246	17,441	87.4%
車扱	1,120	1,162	96.3%	7,629	7,985	95.5%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

扱別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	196	233	-37	84.1%
	化学工業品	163	161	2	101.2%
	化学薬品	130	123	7	105.7%
	食料工業品	308	320	-12	96.3%
	紙・パルプ	259	257	2	100.8%
	他工業品	123	134	-11	91.8%
	積合せ貨物	208	211	-3	98.6%
	自動車部品	60	58	2	103.4%
	家電・情報機器	38	38	0	100.0%
	エコ関連物資	30	32	-2	93.8%
	その他	284	296	-12	95.9%
コンテナ計	1,799	1,863	-64	96.6%	
車扱	石油	822	819	3	100.3%
	セメント・石灰石	103	112	-9	91.9%
	車両	114	114	0	99.5%
	その他	81	117	-36	69.7%
	車扱計	1,120	1,162	-42	96.3%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)